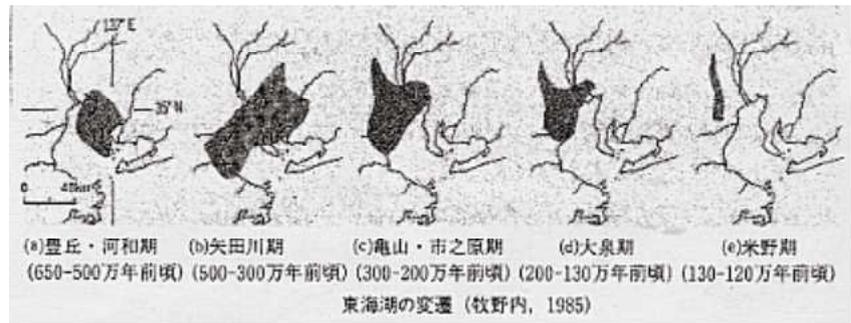


# 資料 東海湖の変遷と鈴鹿山脈・養老山地・濃尾平野の誕生

「愛知県の自然 講師 山田正浩先生」/「岐阜大学教育学部サイト」より

## 1 東海湖の変遷

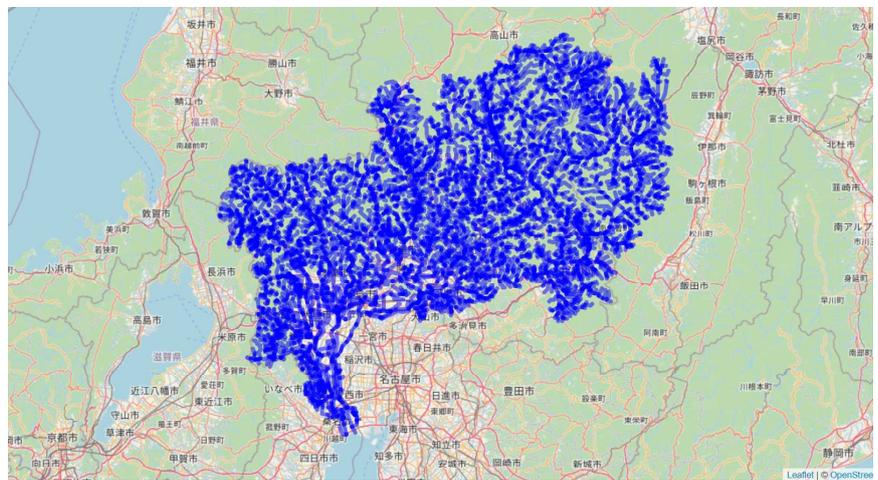
今から650万年から500万年前にはすでに東海湖が存在しており、500万年から300万年前あたりに東海湖の範囲が一番広がっていた。やがて東海湖の東側が高くなっていき、東海湖は西に追いやられていく形で小さくなっていった。130万年から120万年ぐらい前、東海湖の西側で養老山地が隆起しており、東海湖は行き場がなくなり消滅した。



東海湖の変遷

## 2 木曾三川の流域

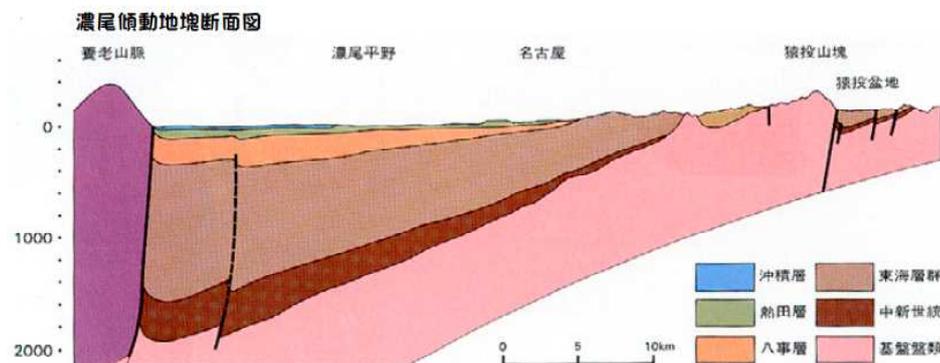
東海湖に流れ込んでいた川は、東側の土地が上がることにより、その流れが西へ西へと変わっていった。東海湖がなくなり、現在では、木曾三川(木曾川水系)となり、三つの川がそろう伊勢湾に注いでいる。木曾三川(木曾川水系)の流域が東に大きく広がっているのは、東海湖の消滅と大いに関わりがある。



## 3 鈴鹿山脈、養老山地、濃尾平野の誕生

東海湖が消滅していく時期と、鈴鹿山脈、養老山地が隆起していく時期が同じである。養老山地は濃尾平野との境目で東側からの力により断層ができ、土地全体が持ち上げられ、西に傾くことによってできた。これを傾動地塊という。養老山地は傾動地塊である。同時期に養老山地の東側から猿投山までを一つのブロックとして傾動地塊ができた。猿投山が隆起し、その西側が沈降する形で傾いた。濃尾平野の誕生である。この傾動運動は100万年ほど前から本格化し、現在も進行中であり、その平均の速さは年間0.5~0.6m

mと考えられている。その結果、平野へ流れ込む河川は西方へ偏る傾向になり、運び込まれる土砂も平野の西部に厚く堆積していくことになる。それは同時に、木曾三川の流域は東に広がり、三川がそろう伊勢湾に注いでいることにつながっている。



#### (4) 東海湖の変遷と鈴鹿山脈・養老山地・濃尾平野の誕生

( )年( )組( )席・名前( )

課題 資料「東海湖の変遷と鈴鹿山脈・養老山地・濃尾平野の誕生」を読んで、次の問いに答えなさい。

(1) 東海湖の誕生について考えよう

湖が誕生するには、まわりの土地より低くなる必要がある。どんな力が働いて土地が低くなったのだろうか？暑い紙束を地層として考えよう。

おそらく、東側から押されて、土地が沈んだ(へこんだ)と考えられる。  
桑名背斜は凸に曲がったが、東海湖のところは凹に曲がったと考えられる。  
しゅうきょくで言うなら、凹の部分となった。(凹に曲がった。)

(2) この文章の中で、大地が東側から力を受けた結果、起きた事象は何でしょうか。

東海湖が西に移動していき、ついには消滅した。  
養老山地の出現  
木曾三川の流域が東に大きく広がっている。  
木曾三川がそろって伊勢湾にそそいでいる。  
濃尾平野の誕生 濃尾平野は現在も沈降している。  
(鈴鹿山脈の誕生)

※ 養老山地と養老断層についての補足説明

養老山地は、東側から大きな力を受けて、山地全体が西に傾きながら隆起してできた。山地の東側は、断層になっている。

養老山地:約200万年前にできた

養老断層:約2000mの差(濃尾平野:基盤まで1500m 養老山地標高600m)

巨大地震では2mの断層ができるとすると、養老断層は1000回の地震で2000mの差ができたことになる。200万年で1000回だから、2000年に一回の割合で巨大地震が発生することになる。1mの断層ができる地震なら1000年に一回の割合、10cmなら100年に一回の割合となる。年間1mmの隆起量となり、結構、納得のいく数字である。

(3) 大地が東側から受けた力は、地球表面をおおうプレートの動きと関連していると考えられます。そのプレートの名前と、そのプレートのどんな動きと関連しているのでしょうか。

太平洋プレート  
西北西に年間約8cmの速度で進んでいる。  
太平洋プレートが日本列島を東側から西側に押している。